

2013年3月11日

福井県知事 西川 一誠 殿

さよなら原発福井県集会 2013 実行委員会
実行委員長 山本富士夫
事務局 林 広員 (0776-27-6648)

申し入れ書

アイゼンハワー・アメリカ大統領が 1953 年に「アトムズ フォー ピース」という国連演説を行ってから今年で 60 年になります。当時の日本政府は、その演説に飛びつき、原子力発電は核エネルギーの平和利用であるとして、原子力発電所（原発）の新增設を強権的に推進してきました。同時に、原発は核兵器と表裏一体の関係にあることが問題となり、今では非核を世界中の人々が原発と核兵器を廃絶せよと訴えています。

この半世紀の間に、原発推進者たちは「五重の壁」や「多重防護」を論拠として原発安全神話を作り上げ、更に「原発はクリーンである」とか「核燃料サイクルによってエネルギー資源は無限にある」などと喧伝してきました。しかし、軽水型原子炉は、60 年たった今も、炉内での核分裂の反応度制御と軽水による冷却の制御の技術が未完成であるため過酷事故の発生の可能性を否定できない致命的欠陥を持っています。さらに、使用済み核燃料の再処理と核燃料サイクルの技術は未完成のままであり、しかも核廃棄物の最終処分問題は将来的にも全く解決の糸口すら見つかっていないのです。そのような中で、原発推進者たちは、原発の重大事故は起きないと言ってきました。

しかし、1979 年にアメリカのスリーマイル島事故、1986 年にソ連のチェルノブイリ事故、そして 2 年前の 2011 年に福島第一原子力発電所で 4 基の原発が爆発する事故が起きました。これらの原発の重大事故は、放射性物質を環境に放出・拡散させ人々の生命と財産を奪い、経済から教育までも破壊しました。世界の人々は、これらの重大事故から「原発は極めて危険である」という教訓を得ました。

福島第一原発の 4 基の事故機からは今も崩壊熱と放射性物質が出ており、原子炉に大量の冷却水が送られています。すなわち福島原発災害は全く収束していないのです。福島県民は放射線による健康障害発生の恐れと不安におしつぶされそうになりながら、苦しい生活をしています。特に、16 万人もの住民は今も避難生活を強いられています。

福井県の西川知事と野田政権は、昨年 6 月に、福島原発事故を科学的に分析した国会事故調報告書が出ていない段階で、財界と原発立地自治体の貪欲な経済優先の要求に沿って「政府決断」し、7 月には大飯原発 3,4 号機を運転再開させてしまいました。これは、科学的安全第一を無視した暴挙であり、大きな歴史的禍根を残しました。

昨日の集会「3・11メモリアルアクション～原発のない新しい福井へ」に参加した私たちは、「原発は危険である」ことをしっかり学習し、福島原発災害を二度と繰り返さない決意をもって、フェニックスプラザに集まりました。特に今回は、命と暮らしを守り子供を産み育てる女性の参加者、および、希望と自由を求める青年の参加者の人数が予想をはるかに超え、新しい運動が芽生えたことに特徴があります。

私たちは、政府と福井県に「全ての原発とさよならする」決断をさせるために、女性や青年たちと共に、また、国内外の原発をなくす広範な運動グループと手をつないで、国民運動をさらに強めていきます。

私たちは、熱い思いと希望を持って、次の三つのスローガンのアピールを確認しました。本日ここで福井県に要請します。

[要請項目]

- 一、 原発のない新しい福井をつくろう！
- 一、 大飯原発を止めよう！
- 一、 高速増殖炉「もんじゅ」を今すぐ廃炉に！

以上